

意見陳述

控訴人 秋山みゆき



控訴人の秋山みゆきと申します。江別市在住です。自然環境や生物に強い関心があります。北海道生まれ、38年間北海道(乙部、夕張、札幌、江別)で中学校の教員をしていました。

私が今日、ここにいるのは、子供達と共に「地球の明日を思う教員でありたい」「子ども達に安全安心な明日を繋ぎたい」という思いを伝えるためです。

原発の事故は、どんな事があっても、2度、繰り返しはけません。三権分立は、国家権力からこの国の平和と安全を守っています。立法も行政も

の現状を止められないなら、司法で止めるしかありません。失敗は1度きりです。

2011年3月11日、マグニチュード9.0、震度7、巨大な逆断層型の「東北地方太平洋沖地震」が発生しました。私は生徒と共に中学校の体育館で卒業式の練習中でした。天井の照明器具が大きく揺れ、全校生徒の中に大きな動揺と不安が広がりました。しかし、私の頭の中では福島原発でこの時、何が起きているのかを想像することはできませんでした。

2013年、事故後その対応に奔走した吉田所長が食道がんにて他界しました。その後も、核「ミ」(高レベル放射性廃棄物)の処理施設の設置場所選定問題は解決せず、女川原発2号機、柏崎刈羽原発6号機が再稼働し、泊発電所は再稼働の地元同意を取得しました。さらに、政府は2040年度に電源の20%程度を原発にするという目標を発表しました。

原発の再稼働については、中部電力浜岡原発が2025年12月にデータの捏造・改ざんの疑いで審査停止、敦賀2号機も新基準により不合格となりました。

2011年の福島第一原発の事故の際、「SPEEDY(環

境時環境線量情報システム)」が機能しなかったのは、全電源喪失という「想定外」だったからだと、東電には責任がなかったようにふるまいました。「どうなっているのだろう、この国は? 理解ができません」。私は、ビッグネームの北電をやめて、電力会社を変えました。それでも私の社会不信は変わりません。

原発においては、「想定外」はあつてはいけません。事故は原発以外にも起こります。なんらかの事故が想定されている場合、事故を未然に防ぐための対応をします。経年劣化や検査漏れを含む人為ミス、また自然災害を想定して、どんな場合にも対応します。原発においては、絶対の安全設計が必須です。「想定外」はあつてはなりません。しかし、設置当事者から「想定外」がまことしやかに語られます。

原因がどうであれ、原発事故の場合その影響が、広範囲、長期的、人間のみなならず生物全体、そしてその生物の内部の細胞に長期的にダメージを与える、という、重大かつ深刻なものになります。福島では、高線量のため未だに帰還困難区域、原則立ち入り禁止区域があります。放射線が厄介なのは、人間の五感では確認できないことです。遺伝子レベルに影響するこ

となので楽観的に考えるわけにはいきません。未だに、放射線量が多く、事故前に復帰できない地域があるということ自体、原発事故は人間の責任を負えるレベルを越えています。さらに、テロなどによる原子力発電所攻撃は手の打ちようがありません。

安全な生活、社会がよいのです。原発の場合、事故がなくても、稼働していても、1日24時間、1年365日、不安や心配を抱えることになります。地元はもちろん、北海道に住む人が、地震があるたびに、火山噴火があるたびに、巨大台風が通過するたびに、世界のどこかでテロによる爆発があるたびに、それが北海道でなくても、常に危険の大きさを心の片隅にも感じになります。

私は、北電に望むことがたくさんあります。まず、札幌の市民の目につくところに放射線表示モニターを設置することです。電気を消費している札幌圏で生活している方々への意識喚起が必要です。消費は自分達の住む札幌圏、危険は札幌圏から離れた原発設置の現地に丸投げ、押し付けるのはだめです。

次に、原発ではない新たな発電システムを、札幌石狩圏に増設してほしいのです。原発については意見が二分します。ですから、そうではない発電システムを増設し、札幌圏で消費する電気は、地元で供給できるようにする。めざせ、電気の地産地消です。

さらに、私は、地球気候温暖化防止対策に力を入れて欲しいのです。二酸化炭素の地下貯蔵や金属多孔体(MOF)による二酸化炭素の吸収と排出回収、メタンガスの回収など、私が、北電などの大企業に期待することはたくさんあります。エネルギーに関わる社会課題はたくさんあり、それらに積極的に取り組んで欲しいのです。

原子力についての失敗はどんな事があつても、2度、繰り返しはいけないのです。子ども達の明日のために、立法、行政が止められないなら、司法がこれを止めなければならない、と思います。

「6055日の笑顔」、島太星さんの歌です。ご存じですか。北電のCMソングです。「365日の笑顔」、そんな明日をここに、電力会社の方、裁判関係の方、そして私達さらに、すべての子ども達に届けたいのです。

以上